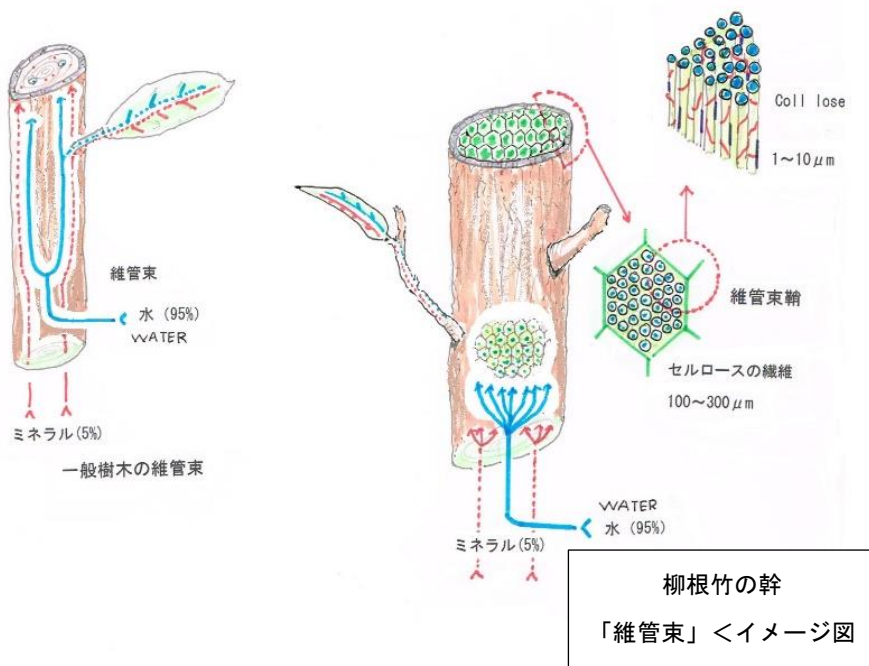


やなぎもとたけ
「柳根竹」特性と利用

一般の針葉樹は、約30年～50年の長い歳月により立派な樹木にはなりますが、長い年月による維持管理が負担となっております。今後の国内人口減少にともなう住宅向け木材利用と紙パルプ向けチップ利用の大幅な減少などの問題点から今後においても森林市場が厳しいことが予想されます。

「柳根竹」は林地造成が容易で成長も早く、効率よく生産伐採ができます。寒冷地においても促成がよいことから繰り返して生産・収穫ができる持続性のある新樹木としてサイクル造林・多収穫が可能です。この造林サイクルにより道内地域の森林事業支援にもなり「バイオマス造林事業」として「柳根竹」に期待ができます。

「柳根竹」は湿潤な土壌も好みます。大気中の二酸化炭素（CO₂）と根からは水を吸い上げることで急成長します。葉っぱから気孔が大きく開け続けることで水分が放出され、補給する為に根を通じて多くの水分を取る必要があります。海岸、河川氾濫災害地域・田畑の耕作放棄地など河畔・湿潤地にも適した広葉樹です。



「柳根竹」の幹断面は竹繊維の「維管束」によって構成されており、針のようなセルロースが寄せ集まった構造です。垂直に同じ方向に並んだ「維管束鞘」は、高強度で剛直されることで台風にも強く、防風林・保護林としての利用も可能な樹木です。急成長と共に根がらみ根張りがよくなる事で山林法面保護にも適応できます。

一般樹木の維管束は数本の水管を通じてゆっくりと上部に水は運ばれ、幹から葉っぱへと送られます。一方、「柳根竹」の特性により多くの「維管束」を構成する「維管束鞘」により一般樹木の数十倍の力で根から水とミネラルを吸い上げます。同時にセルロース繊維を多く含む束が、急速に増殖し幹を太くしていきます。「柳根竹」は寒冷地では5年程で約20cmの太さに成長することから、短期伐採が可能となり特に密集造林により反当たりの収穫量も増え、FIT利用による「バイオマス造林・伐採」から、地元地域の森林経済に大変期待できるのが「柳根竹」です。